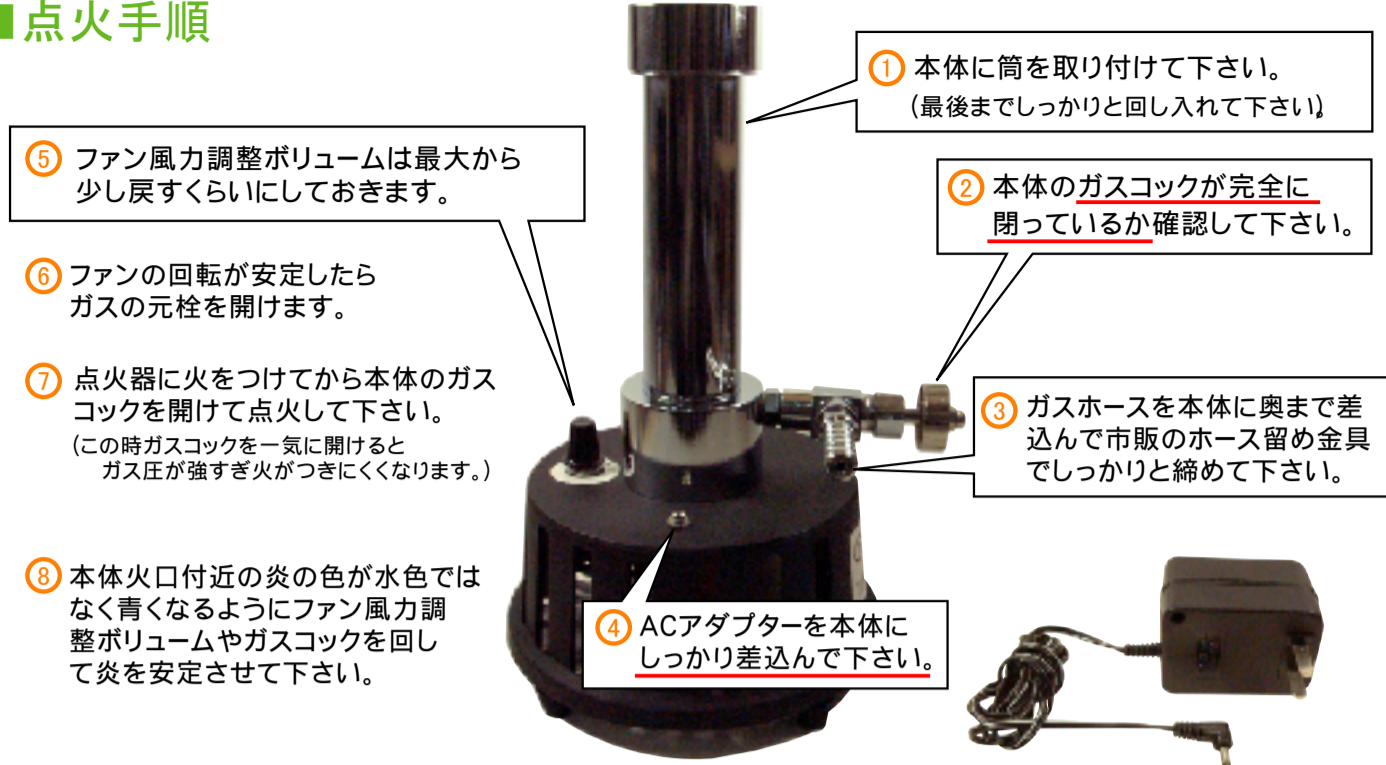


バーナーの点火・消火手順と操作方法

■ 点火手順



■ バーナーワーク作業上のご注意

- 冷えた原料ガラスを急に炎に接触させると、割れて飛び散る事があります。着衣は長袖の物を着用し、飛び散ったガラスが目に入らないように、防護処置を行った上で作業して下さい。
- 火口のネットにガラスの破片等が落ちた場合、ピンセット等で直ちに除去して下さい。放置したまま作業をしますと、破片が溶解しネット及び火口の損傷につながると同時に燃焼状態が不安定になると同時に逆火(バーナー内部での燃焼)の可能性があります。
- ※ガスホース・電気コードが、作業中に手や足に絡まらないように注意してください。万一、絡まってバーナーが倒れると大変危険です。
- 都市ガスまたはプロパンガス専用バーナーでのガスのご使用にはご注意ください。使用ガスが違う場合、事故の原因になります。(2006年1月以降のものは兼用タイプです。)

■ 消火手順

- 1、**本体のガスコックを完全に閉め、ガスの元栓を閉めます。**
- 2、ガスホースの中に残っているガスを抜きます。
この時必ず換気して下さい。ガスホースが長いほどガス量が多いのでガス臭が強くなります。ガスの元栓を閉めた後、再び本体のガスコックを開け点火器をゆっくりと本体火口に火を近づけて点火して下さい。
この時ファンは回した状態にして下さい。3秒程(ガスホース内のガス残量にもよります)で火が消えます。これでホース内のガスがなくなります。
本体のガスコックを再度、完全に閉めて下さい。
- 4、ファンはバーナー火口の冷却のため約10分ほどエアを流した上、ファンの電源を切して下さい。
- 5、バーナー火口が冷却しましたら、**ACアダプターを必ずコンセントから抜いて下さい。**最初にコンセント側(家庭用電源)から抜き、最後にバーナー本体側アダプター差込口ジャックを抜いて下さい。

- ⚠ 警告 この表示の項目は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
- ⚠ 注意 この表示の項目は「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

警告

- ガスホースは常にガスホース取付口のホースエンドの根元まで差込み、市販のホースバンドでしっかりと締めて下さい。ガス洩れ事故の原因となります。
- ガスホースは定期的に、ひび割れ等がないかを点検して、不備がありましたら直ちに交換して下さい。事故の原因となります。
- ファンが故障した場合は、絶対に使用しないで下さい。ファンが回らないとバーナーの炎は赤火になり、燃焼状態となって火傷及び火災事故の原因となります。
- ガスの元コックとバーナーのガスコックは作業後必ず締めて下さい。**ガスホースの脱落、ホースからのガス洩れで事故につながる場合があります。
- 子供や取扱いに不慣れな方だけで使わせたり、乳幼児の手の届く所では使用しないで下さい。
- 本製品は安定した場所に水平に設置して下さい。使用中に転倒した場合、火災事故の原因となります。
- ACアダプターは根元まで確実に差し込んで下さい。**差し込みが不完全ですと感電や発熱による火災の原因になります。(傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないで下さい。)
- 使用中ACアダプターは溶けたガラスが飛んでこない場所また、バーナー本体の近くへは置かないようにして下さい。
- ご使用時以外は、**必ずACアダプター本体はコンセントから抜いて下さい。**最初にコンセント側(家庭用電源)から抜き、最後にバーナー本体側アダプター差込口ジャックを抜いて下さい。手順を誤りますと怪我・火傷・絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。
- また、ACアダプター本体の断線の可能性、接触の悪さ等、不備な点がみられました場合もご使用を止めて、製造元へご連絡下さいますようお願い致します。

注意

- バーナーに点火するときは、必ず点火器を使い、炎孔部から離れて点火して下さい。
- マッチ・ライター等で点火すると火傷する可能性があります。
- バーナーを使用中は、定期的に部屋の換気を必ず行って下さい。部屋の中の酸素が少なくなり、バーナーが不完全燃焼を起こし、事故の原因になります。
- バーナー本体を分解したり、改造したりしないで下さい。異常動作してけがをする場合があります。

有限会社 喜南鈴硝子

〒536-0014 大阪市城東区嶋野西1-15-4

TEL. 06-6968-5665 FAX. 06-6968-5685

E-mail: info@tonbodama.com URL: http://www.tonbodama.com